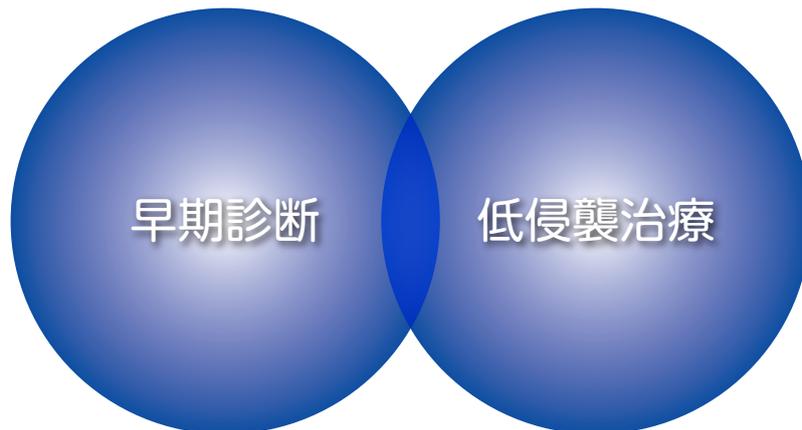


オリンパス医療事業の強み

「早期診断」「低侵襲治療」をベースとした価値の提供

消化器内視鏡を核とした「早期診断」、外科製品を中心とした「低侵襲治療」という2つの価値を提供し患者さんのQOL (Quality of Life:生活の質) 向上と世界的に増加傾向にある医療コストの抑制に貢献していきます。

オリンパスが提供する2つの価値



長年にわたる医師との信頼関係を活かした製品開発

1950年に世界初の実用的な胃カメラを開発してから現在に至るまで、医師との二人三脚で内視鏡技術の改良を進めてきました。例えば、内視鏡に求められる極めて繊細な操作性は、医師とともに細かい仕様を改良する長年の積み重ねによるものであり、当社製品の優位性の一つとなっています。



強固な事業基盤

世界最高の技術・製品・サービス・ソリューションを世界中に提供するため、オリンパスの医療事業のネットワークは世界中に広がっています。

- I トレーニングセンター 内視鏡医の育成を支援
- II サービス 世界6大陸、グローバルに広がる業界トップの体制
- III 製造技術 医師のニーズを具現化する独自のものづくり力

I トレーニングセンター 内視鏡医の育成を支援

現在、中国を中心とした新興国市場では急速な経済発展に伴って、「早期診断」「低侵襲治療」への要望が大きくなっています。オリンパスは、新興国においても日欧米と同様に、トレーニング機会の提供を通じた医師の育成を支援しています。

中国での取り組み

中国では政府が医療制度改革を進めていることに加え、先進国同様に人口の高齢化も急速に進んでいます。こうしたなか、医療機関では、患者さんの増加に内視鏡医が追いついておらず、内視鏡医の育成が急務となっています。オリンパスは2008年、上海市郊外の研究・産業振興地区に上海トレーニングセンターを開設しました。上海市の空港から交通の便も良く、中国全土から医師が訪れます。近未来的な外観の建物内には、トレーニングセンターとコールセンターが設置されており、トレーニングセンターでは、消化器内視鏡の検査のほか内視鏡用処置具や外科機器の操作が習得できます。最上階には、100名近く収容可能な講演ホールを備え、大容量ブロードバンド回線を通じ、中国国内外の医師と学術交流を行うことが可能です。上海トレーニングセンターは、営業マン・サービス担当者の研修も行い、販売サービスの質の向上にも貢献しています。コールセンターは、全国の医療機関・営業マン・サービス担当者・特約店からの問い合わせに対応しており、その対応内容は日米欧と同等です。オリンパスは同様のトレーニングセンターを2010年に北京、2013年に広州にも設置し、内視鏡医の育成支援を加速しています。



上海トレーニングセンター全景



施設内でさまざまなトレーニングを受けることができる

アジア諸国での取り組み

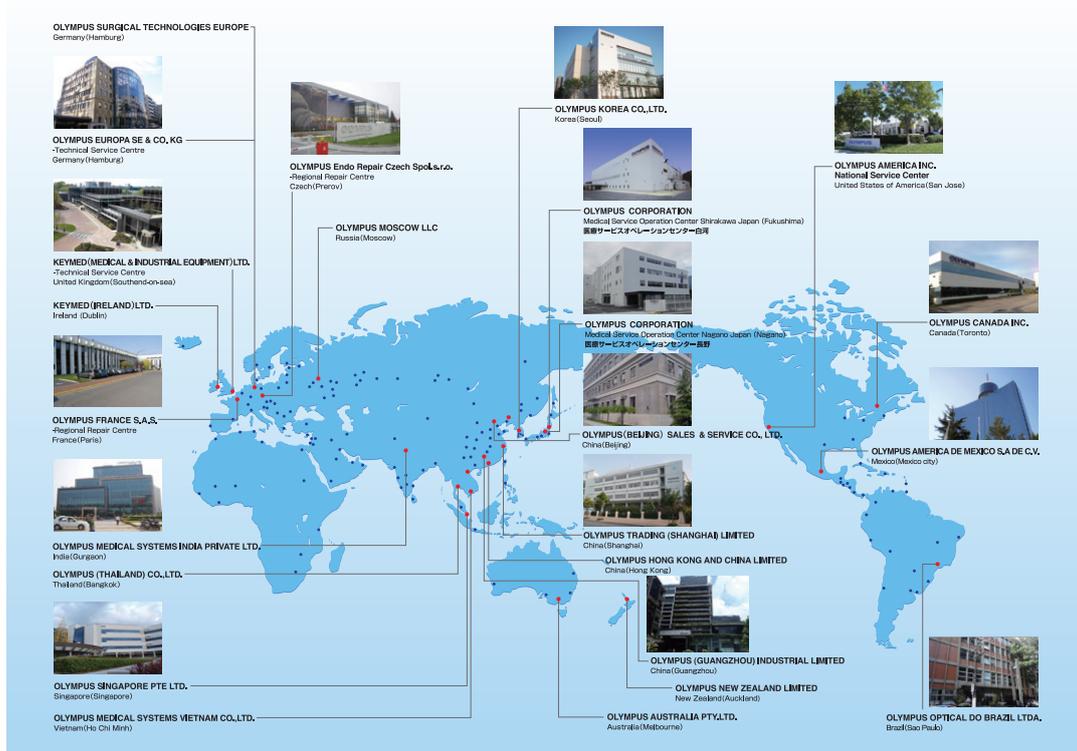
総人口が12億人以上で、中国に続く有望市場と見られるインドにおいては人口の多さや経済発展の速さから、今後、医療機器の普及が急速に進むと考えられています。日本や中国と同様に消化器疾患が多く、膵臓・胆のう疾患に関連した内視鏡処置が盛んに行われています。オリンパスはインドの学会と連携し、年間150回以上の内視鏡トレーニングをサポートしています。また、2016年には東南アジアの医療従事者をターゲットとしたトレーニングセンターをタイに設立しており、東南アジア諸国での内視鏡医の普及、および医療技術基盤の発展に尽力しています。今後も、アジア各地域でのトレーニングセンター設立を予定しており、内視鏡医の育成支援、内視鏡を利用した早期診断・低侵襲治療・手技普及に力を入れ、患者さんのQOL (Quality of Life: 生活の質) 向上に貢献していきます。



タイ トレーニングセンター

II サービス

世界6大陸、グローバルに広がる業界トップの体制



オリンパスのグローバルな修理拠点一覧 (●は重修理※対応拠点)

内視鏡は人体に使われる精密機械であり、最高の機能を発揮するには、最高のメンテナンスをする必要があります。オリンパスは、世界中の患者さんが安心して内視鏡検査・治療を受けられるように、業界トップのグローバルなサービス体制を構築しています。

世界最大の内視鏡修理センター

米国カリフォルニア州サンノゼ。ここにオリンパスが誇る世界最大の内視鏡修理センター「サンノゼ ナショナルサービスセンター」があります。敷地面積は、8万㎡。コーポレートカラーであるブルーを基調とした建物の内側で、サービススタッフ約250名が整然と修理作業を行っています。サンノゼは、分解を含む本格的な修理(重修理)※を集中して行うために1979年に設置されました。それまでは、全米各地のサービス拠点で内視鏡の重修理も行っていましたが、高度な技能や多くの交換部品を必要とする内視鏡修理で、高い品質と短い修理期間を両立するためには、センター方式が向いていると判断したためです。

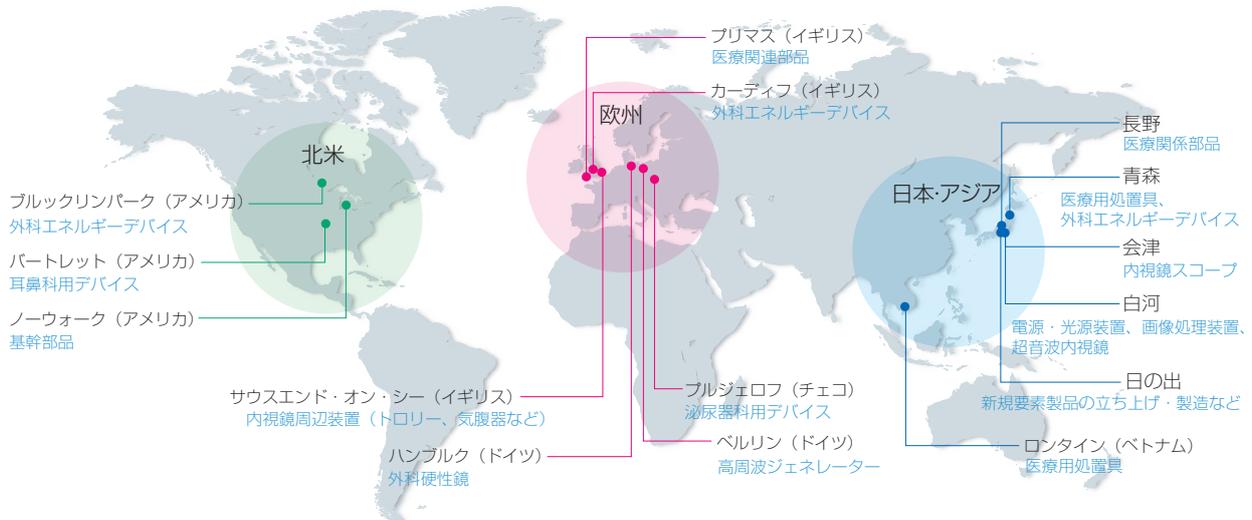
※重修理: 故障した製品を分解し、検査・修理すること。



世界最大の内視鏡修理センター (米国サンノゼ)

新品と同等の修理品質

人体に直接挿入して使う内視鏡は、少しの作動不良が医療事故につながる可能性があります。そのため、修理完成品の品質は新品と同等のものが求められます。「安心・安定して使えること」が、内視鏡の本質的な価値の一つ。オリンパスはこうした思想から、1952年の内視鏡事業のスタート時より、サービス体制の充実に力を入れてきました。現在では、北米、南米、欧州、アジア、豪州、アフリカの世界6大陸にサービス拠点があります。これは、世界の医療機器メーカーの中で、随一のネットワークです。



オリンパスの製造拠点は、北米、欧州、日本・アジアの3極体制から成り立っています。まず、北米は、3つの製造拠点がベースで、外科分野の機器を製造しています。主な製品は、耳鼻科向け処置デバイスや外科エネルギーデバイスなどです。欧州では、ドイツ、チェコ、イギリスの製造拠点にて硬性鏡、泌尿器科／婦人科向け処置デバイス、外科エネルギーデバイスや内視鏡関連機器を製造しています。

高度な製造技術に強み

日本・アジアは、会津、白河、青森の国内3工場とベトナム工場が核となります。国内工場は、高度のすり合わせ技術が必要とする消化器内視鏡システムを基幹部品から開発・製造し、かつ、熟練した製造スタッフが独自のノウハウを蓄積していることが強みです。会津工場は、スコープを一貫して製造しています。内視鏡の主要パーツである撮像ユニット、操作部、接続部などについて、開発と製造が一体となり要素技術を開発することにより、超多品種極少生産を実現しています。多様化する顧客ニーズに応えるため、例えば加工が難しいスコープ先端部のステンレス部品は、自ら工作機械まで開発し、ノウハウの保持を図っています。白河工場は、内視鏡用ビデオプロセッサや光源、超音波内視鏡、カプセル内視鏡などを生産しており、半導体、基板を含めた電装関連の要素技術、回路設計、品質保証に強みを持っています。改善活動にも積極的に、ビデオプロセッサで生産リードタイムの大幅な短縮を実現しています。青森工場は、内視鏡用の処置具の生産で高い技術を有しており、消化管内のポリープの切除に使う高周波スネアや胆管用処置具などでノウハウがあります。青森のサテライト工場であるベトナム工場は、内視鏡用処置具と関連製品を生産しています。

超多品種極少生産を実現する内視鏡システム生産の特殊性

内視鏡の製品バリエーションは年々増加し、現在は300種類を超えます。高度な製造技術と多品種少量生産が求められる中、「ものづくり」に必要な部材が市場になければ、材料開発から設備まで「自分たちでつくる」姿勢を貫いてきました。内視鏡を構成する部品は非常に複雑な形状のため、その加工に用いる刃物は既製品がありません。そこで、新たな部品が必要になるたびに、それを加工する刃物からつくり上げていくことから始まります。自分たちでつくり、問題を解決してはまたつくるという繰り返しにより独自の製品をつくり上げ、世界規模の信頼獲得につなげてきました。

